

〈地球、このままではいけない〉

ジャーナリスト
松本 侑壬子

下の写真、なんだかみんなでピクニックにでも出かけているみたいでしょう？ 実はそんなのききな話じゃない。

人類滅亡の危機について、どうしたらいいのか、答えを探して旅を続けるこの映画の撮影チームの姿なのだ。その中の女優・監督のメラニー・ロランとジャーナリスト・俳優・社会活動家シリル・ディオンの共同監督を務める。

二〇一二年六月、世界の二十一人の科学者が学術雑誌『ネイチャー』に、「このままいくと、人類は遠くない未来に滅亡する」という論文を発表した。この衝撃的な警告に、ちょうど妊娠中だったロランは、子どもたちの未来を思い愕然とする。では、どうすればいいのか―意気投合したディオンの仲間とともに欧米、インドを回り、未来のために新しい生き方を実践している人やグループを探して歩き、一本のドキュメンタリーを完成させた。それが、昨年フランスで権威ある

賞を得て、ドキュメンタリーとしては空前のヒットとなった本作である。

警告では、このままでは気候変動による地殻破壊と人口増加が人類を滅亡へと導き、二〇四〇年から二二〇〇年の間には劇的な危機に見舞われるという。このままとは、今のライフスタイルを続けなければ、ということ。だったら、そうではなくて、「幸せに暮らすためのライフスタイル」を探そう、と立ち上がったのだ。新しい暮らしを既に始めている人たちは、実は世界各地にいる。彼らに実際に会って、話を聞き、その暮らしぶりを見せてもらおう。そこから目指すライフスタイルが見えてくるのではないか。いや、ただ見るのではなく、男女、年齢、国籍などを越えて世界中の人に、実践できるようにわかりやすく情報として提案する映画にしよう、と。

映画を農業、エネルギー、経済、民主主義、教育の五つの章に分け、それぞれ

の章の終わりにはロランとディオンの内容のまとめや新たな疑問などのトピックを入れる。手書きのイラストや旅先で見た自然の美しさ、人々の笑顔の素晴らしさ、そして注目のジャズシンガー、フレドリカ・スタールのナイスな音楽、と目にも耳にも楽しくおしゃれな映画だ。何より、取り上げる事例が素晴らしい。

例えばフランス・リールの、ある封筒専門メーカー。「環境配慮型の生産体制の方がより経済的」との信念の下に徹底してリサイクル、短時間労働、フルタイム雇用、ごみ資源の再利用、太陽光による自家発電、雨水再利用から養蜂、果樹園経営、植樹までエコライフを実践し、成功している。

アメリカ・オークランドのバリー（地元経済のためのビジネス連合）は、三万五千の起業家が所属し、全米につながる八十のネットワークにより、地域と起業家たちが雇用を生みだし、地元の食料システムを発展させるツールも作り出す。女性の代表の下でこの十年で全米最大のネットワークに成長した。活動を引っ張るのは女性パワーである。

旅を通して見えてきたものは―。新たな展望へ向けて「今すぐ行動へ！」とロランらは呼びかけている。



『TOMORROW パーマネントライフを探して』

フランス映画 (120分)

監督：メラニー・ロラン、シリル・ディオ

出演：メラニー・ロラン、シリル・ディオ、ロブ・ホピンス、ヴァンダナ・シヴァほか

公開中

©MOVEMOVIE - FRANCE 2 CINÉMA - MELY PRODUCTIONS